

建設マネジメント力の評価シート [施工者]

5つの能力要素	建設マネジメント力の能力要素の細目と具体的な発現事例
1 目的意識力 現場に向き合い、より良い方法でよりよいものを造ろうとする意欲、日頃の取り組み姿勢	①幅広い視野(たこつぼ型にならない) 自分の立場(発注者、設計者、施工者)や担当業務の範囲か否かにかかわらず、事業全体の目的や意義、そして課題は何かを常に意識してきた。
	②高品質への意欲(よりよいものづくりへの使命感) 事業、業務、工事等(以下、「プロジェクト」という。)の効果的な推進のため、自らの責任範囲にかかわらず、実施手法等について積極的な提案を行ってきた。
	③新取の姿勢(新技術導入等への積極性) 新工法、調査、計画等の新技術、新しい事業手法の導入等について、プロジェクトの効果的な実施のため実績が乏しいものであっても積極的に採用してきた。
	④現場主義(現場を重視する姿勢) 自らが取り組むプロジェクトの現場はもとより、他の参考になる現場に積極的に足を運び、自らの目で実際に起こっていることを確かめるようにしてきた。
	⑤自己研さん(知識・技術の習得意欲) プロジェクトを適切に実施するため、学会誌、専門誌等から参考となる論文や報告を読んだり、事例報告会に参加したり、先輩等からアドバイスを聞いたりしてきた。
	⑥技術継承(技術の伝搬、継承への意欲) 経験を生かして組織内外での各種の指針作り(見直し)や、論文、レポート等の発表、後輩たちへの伝承などに積極的に取り組んできた。
2 主体的に判断する力(エンジニアリングジャッジメント) 状況分析、対応策の選択等にあって、物事の多面性を考慮し総合的な観点から主体性をもって判断をすることができる。(マニュアル等に拘束されず、活用し、その目的を実現する。)	①総合的判断力(多面的、総合的なリスク分析力) 自社の調達部門より特定の業者を強く推薦されたが、その業者の製品や施工能力に疑問を抱いたため、契約を行わない判断をした。
	②技術的判断力(技術提案、技術評価、VE) 安全対策を渋る発注者に対して、実施しなかった場合の問題点など、設計変更の必要性を分かり易く整理した。
	③主体的判断力(マニュアルなどに拘束されない) 仕様書・基準書に想定されていない事象が工事現場で発生した場合に、自らの技術的知識に基づき判断した。
3 タイムリーに決断する力 時間制約やリスクの下で、タイミングを失することなく、責任を持って方針決定を行うことができる。(ジレンマの中での選択)	①洞察力ある決断力(状況に即した実施方法の選択、導入) 実行予算の超過、協力業者の倒産等の事態に対して、工法の変更、代替業者の手配等を迅速に決断し、最少のダメージにとどめた。
	②臨機応変な決断力(状況の変化に対し柔軟に対応) 工事実施にあたり不具合、危険な兆候、気象の急変などを認めたため、工事の遅れは気にしながらも、即座に作業の中止や変更を指示した。
	③危機管理決断力(不測の事態に対し現実に即した臨機の対応) 現場での災害発生時に、必要な応援要員を要請する一方で、少ない現場要員に対し初動対応の役割分担を定め指揮し、現場の混乱を防いだ。
4 組織を牽引し実践する力(リーダーシップ) 構成員を目標に向かって動機づけ、実行に移す能力。	①目標設定力(組織の取り組み目標や課題を設定) 工事現場の安全確保の徹底のため、社員から協力会社職員まで身近な工夫、アイデアを提案してもらい、積極的に採用した。
	②説明力(業務実施の意義、効果等を説得力をもって説く) 協力会社に事業の目的を自覚させる取組を行い、各社の潜在能力や調整能力を引き出すことによって、施工計画全体の達成度を高めた。
	③率先力(自ら進んで進行管理の徹底、適切な軌道修正) 事故発生に際して、原因や課題に対する協力会社や社員の対応能力を確認し、増員補強および再発防止策を策定し、工事を速やかに再開した。
5 対外的なコミュニケーション力(発信、共感力) 利害関係者、建設生産システムの他のプレイヤー、内部組織の中での情報発信し、また他者の情報に共感できる能力	①対社会(ステークホルダー、社会と積極的な対話、情報発信) 連立する工区の状況や課題を把握し、工区の担当事業者、地元住民とのコミュニケーションを積極的にとった。
	②対プレイヤー間(発注者、設計者、協力会社間での対話充実) 協力会社に対し、設計条件のポイントや注意点、施工計画上の留意点を丁寧に確認し、そのうえで必要な人員、機械を過不足なく調達させた。
	③対内部組織(コミュニケーションのための場づくり、ツールの導入等) 朝の現場の朝礼時に、職員、協力会社担当者が、持ち場の課題、工事全体の効率向上のための提案等を発表することにした。